

憲照先生の手本ア・ラ・カルト
(à la carte)

締切り 十月二十四日(必着)

昭和55年1月

余	必	積
慶	ず	善
あ		の
り		家
		に
		は

つけペン・墨汁使用

〔解説〕

積善の

家
必
ず

余
慶
あ

◎本会は、今年で創立六十七周年を迎えます。まだまだ世の中には、新型コロナ禍の影響で、世界中が不安の中にいます。

しかしながら諸先生、会員の皆様の「書」への意欲は消えることなく、時間と共に基本的活動は戻りつつあります。

◎今年の短期特別課題は、昨年に引き続き『原点回帰』をテーマとして、本会の創設者奥村憲照先生の手本を改めて学び直すことにいたします。お手本は、硬筆、毛筆、一般部、教育部なども合わせれば相当数あります。一類を四ヵ月交替で掲載していく予定です。

◎多くの方がかつて憧れた憲照先生の書と向き合うことで、書への情熱を今一度燃え上がらせていただければと思います。

◎創立七〇周年に向けて、力強く歩んで行きましょう。

★積善の：(書体Ⅱ楷書)

易経(えききょう・前五百年代、中国五経(儒学で、聖人の述作として尊重する五部の経書)の一つ)

「積不善の家には必ず余殃(よおう・わざわい)あり」と対句をなす易経文言篇の語。善行を積み重ねれば、子々孫々のちにいたるまで、慶福が及ぶものであるという意。新年にあたり味わうべき言葉であろう。

〔作品の出し方〕

▼今回も硬筆部だけに限ります。全員本会級位用紙に書いて下さい。硬筆を習っていない方も、出品は可能です。ご自由にどうぞ。

▼用具は自由ですが、線美を追求のためには、つけペン・墨汁をお薦めします。

▼出品制限の対象とはなりません。

▼事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・硬筆規定の成績を、作品余白にお書き下さい。

※不明な点は無記入でも結構です。

▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。▼月例作品と同封する場合は、必ず別のビニール袋に分け、表に「月例」「短期特別」と明記して混同しない様にお願いします。

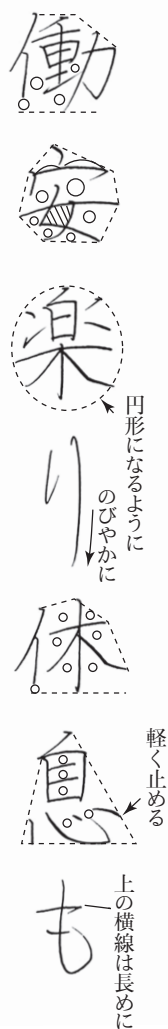
一般部規定課題

締切り 10月24日(必着)

準初段から六段まで

新入から1級まで

〔解説〕



▶教範・書範は右課題を「行草または草書」で、師範は「行書」で出書して下さい。

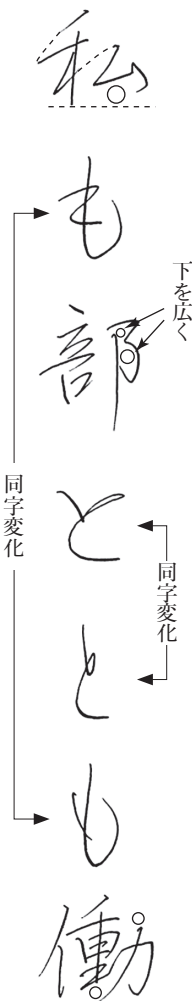
労働があつて
初めて安楽もあり
休息もある

新井龍峰書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

〔解説〕



	部	私
	下	は
	と	い
	と	つ
ワ	も	で
シ	に	も
ン	働	
	く	

古田瑞苑書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

▼教範・書範Ⅱ楷書
▼師範Ⅱ楷書

機会がないとは
薄志弱行の徒の
口実である

◆11月課題予告(行草または草書)
は決して味わうことはできないだろう。

★労働が…(書体Ⅱ楷書)
カーライル(一七九五〜一八八一)
イギリスの思想家
私たちは普通、一週間のうち一日な
いし二日休みをとり、仕事を離れて解
放感を味わい、安楽な気分になること
もできる。しかし、毎日が休日であつ
たらどうだろう。生活に心配のない人
であつたとしても、仕事をした後の休
日に味わうような開放感や安楽な気分
は決して味わうことはできないだろう。

★私は…(書体Ⅱ行書)
ジョージ・ワシントン(一七三二〜一七九
九)
アメリカの大統領
独立戦争のさなか、アメリカ独立軍
の宿営地で、一人の下士官が兵士を指
揮して大きな材木を動かそうとしてい
た。しかし、材木は動かさず、下士官は、
ただ怒鳴り散らすばかり。そこに通
りかかったある士官は、兵士たちと力を
合わせて仕事をやり遂げた。士官は下
士官に「また手の足りないことがあつ
たら、ぼくを呼んでくれ。いつでも手
伝いにくるよ」と言った。

その士官こそ、独立軍総司令官
ジョージ・ワシントンであつた。

◆11月課題予告(楷書)
最も深い川は
最も静かに流れる
カトー

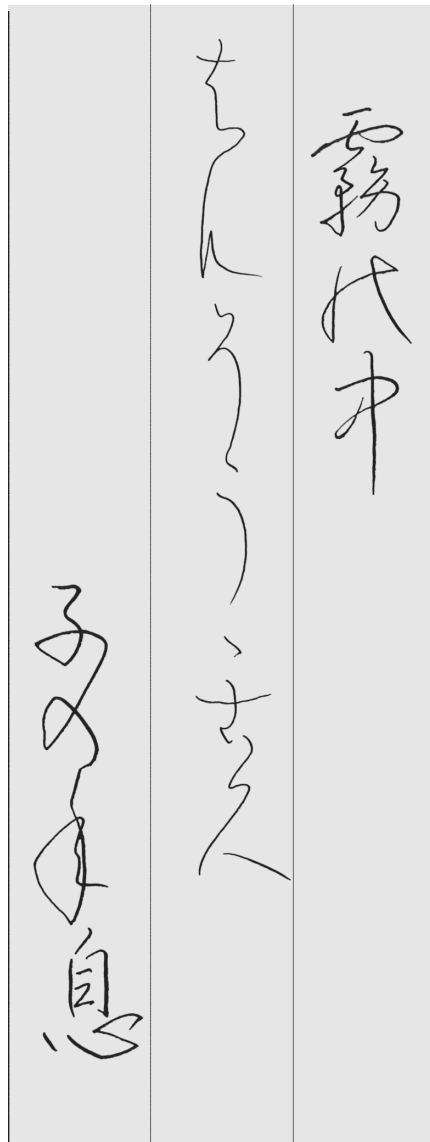
一般部かな課題

締切り 10月24日(必着)

準初段から六段まで

新入から1級まで

霧^能の中^{者无曾う、}万^{古久}相^年うごく子^年の寢息

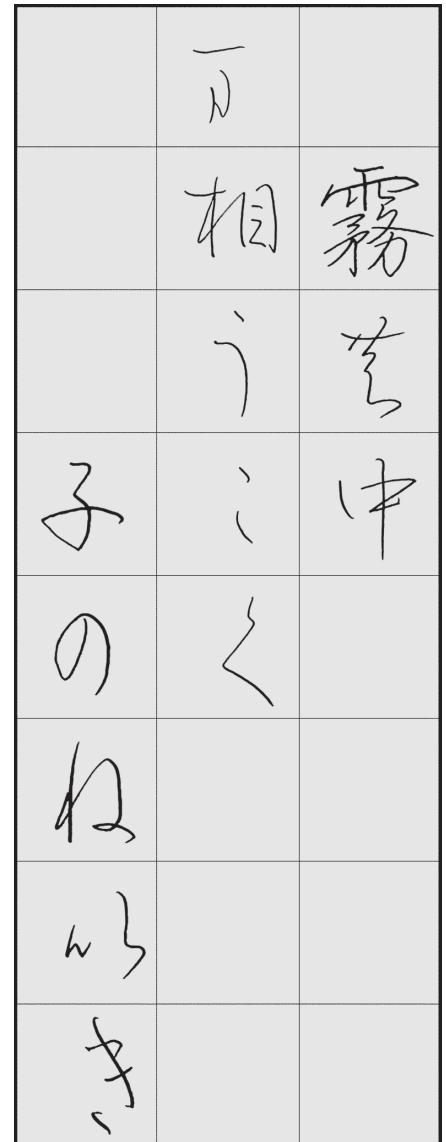


た なか き こう 書
田 中 貴 光

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

霧^農の中^農万^農相^農うごく子^ねの寢息^{いき}



た なか き こう 書
田 中 貴 光

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

■両課題とも、文字の変換・配字は自由です。

霧の中万相うごく子の寢息^{ねいき}

(加藤楸邨^{かとうしゅうそん})

〔句解〕露がしとどに降りた秋の夜、そのしつとりと冷たい大気の中に、病んだ子の苦しそうな寢息を聞いていると、二人を取り巻く一切のもの、一切の思いが、子の寢息と呼応して動き立つのが感じられる。

〔鑑賞〕この句は、長男穂高の入院費に充てるため、穂高の名前をタイトルとし、〈穂高病む〉という前書きをもつ。病児の穂高は小学一年生で、病児の枕辺に座って病状を心配し、父子を取り巻く大きな宇宙の動きを感じている。〈万相〉はすべての様相ということとで、新造語と思われる。

〔古筆参考〕

農^の 能^の 者^は 曾^そ 以^い
あ 能 者 ぞ 以
あ 能 者 ぞ 以
あ 能 者 ぞ 以
あ 能 者 ぞ 以
あ 能 者 ぞ 以
あ 能 者 ぞ 以
あ 能 者 ぞ 以
あ 能 者 ぞ 以
あ 能 者 ぞ 以
あ 能 者 ぞ 以

〔解説〕二行目は画数が少なく、淡く書きますので、大らかに書いて下さい。

◆11月課題予告

風立ちて月光の坂ひらひらす

(大野林火^{おののりんか})

締切り 10月24日(必着)

大空も高く澄みきり、ひんやりとした秋の空気が心地よい季節になりました。ちらほらと紅葉の便りも聞かれるようになってきて紅葉狩りが楽しみです。朝晩は肌寒い折からご自愛下さい。

- 作品の出し方
- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
 - 用紙Ⅱはがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
 - 用具Ⅱはがき、横書き課題ともに自由。(黒色に限る)
 - 両課題とも、書体変換は自由です。

※手本は水性ボールペン使用

大空も高く澄みきり、ひんやりとした秋の空気が心地よい季節になりました。ちらほらと紅葉の便りも聞かれるようになってきて紅葉狩りが楽しみです。朝晩は肌寒い折からご自愛下さい。

横 書 き 課 題

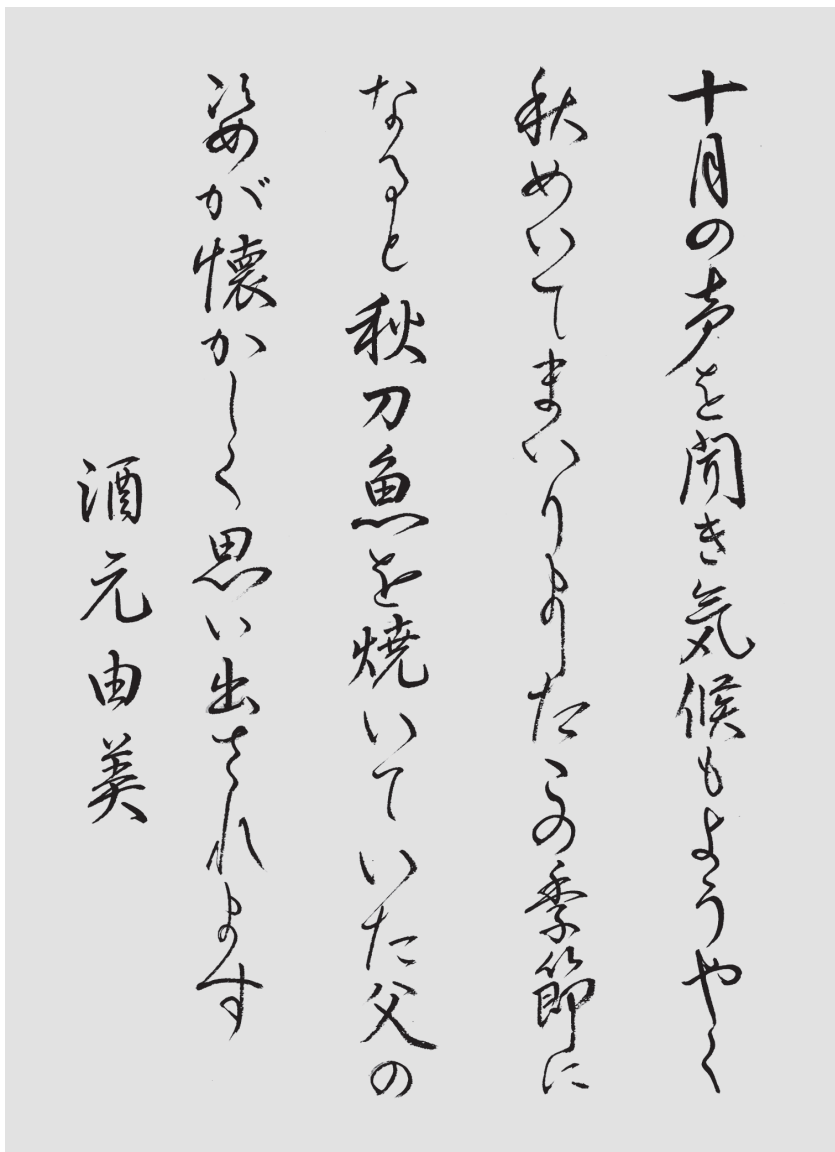
お ぐ 郷 すい こう
尾 郷 翠 光 書

南町奉行大岡越前守は、1719年
自治的な町火消の制度を作った。
奈良県天理市 氏 名

※手本はつけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

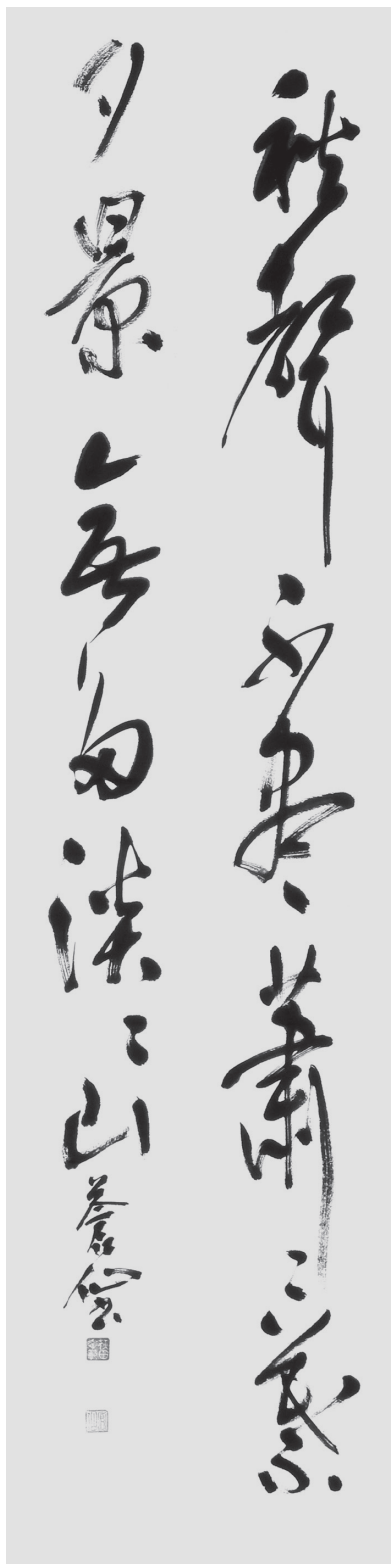
一般部毛筆細字課題

一般部毛筆条幅課題



半紙 (334 mm × 240 mm)

書 香 梅 藤 伊



締切り 十月二十四日 (必着) 半切 (一二六 cm × 三五 cm)

萩 田 蒼 仙 書

秋聲 不尽蕭々葉

夕景 無多淡々山

楊基

〔条幅解説〕

作品の優劣は線が大きく左右します。単純な浅い線、練れた雅味のある線……。多様な起筆の方法と筆圧のかけ方を知るべきです。しっかりと学んで下さい。

・ 十月の声を聞き気候もようやく
秋めいてまいりました この季節に
なると秋刀魚を焼いていた父の
姿が懐かし〜思い出されます

(自分の氏名)

・ 印で墨つぎしました。

〔条幅・細字作品の出し方〕

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。
- 成績 (天位〜5等) は、評価により毎月かわります。
- 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

〔大意〕 秋の声は、ばらばらと降りそぐ葉の絶えぬのに知られる。夕暮れには、あたり小暗く山はほんのりと見える。

初出品の方へ

支部名・会員番号・
姓名・毛筆漢字成績
を、作品左下に必ず
お書き下さい。

新入から1級まで(行書)

澤 幸
寿 書

菊花令 人壽

菊花、人をして寿ならしむ

〔大意〕中国のある地に、菊花から滴り落ちる露を含んだ谷川が流れていて、その水を飲んでいる人々が、けた外れの長寿を保っていたという伝説に基づく語。

〔解説〕

菊花
令
人

寿

◆11月課題予告(楷書)

孤雲寄
大空

準初段から師範まで

須田一葉 臨

徳潤身
皆資學

徳
潤
身
皆
資
學

徳潤身皆資學

〔解説〕

〔出典〕孔子廟堂碑（六二六～六三三）
〔筆者〕虞世南（五五八～六三八）
〔読み〕（道）徳潤身は、皆な学
（校に）資る。

徳潤
身皆
資學

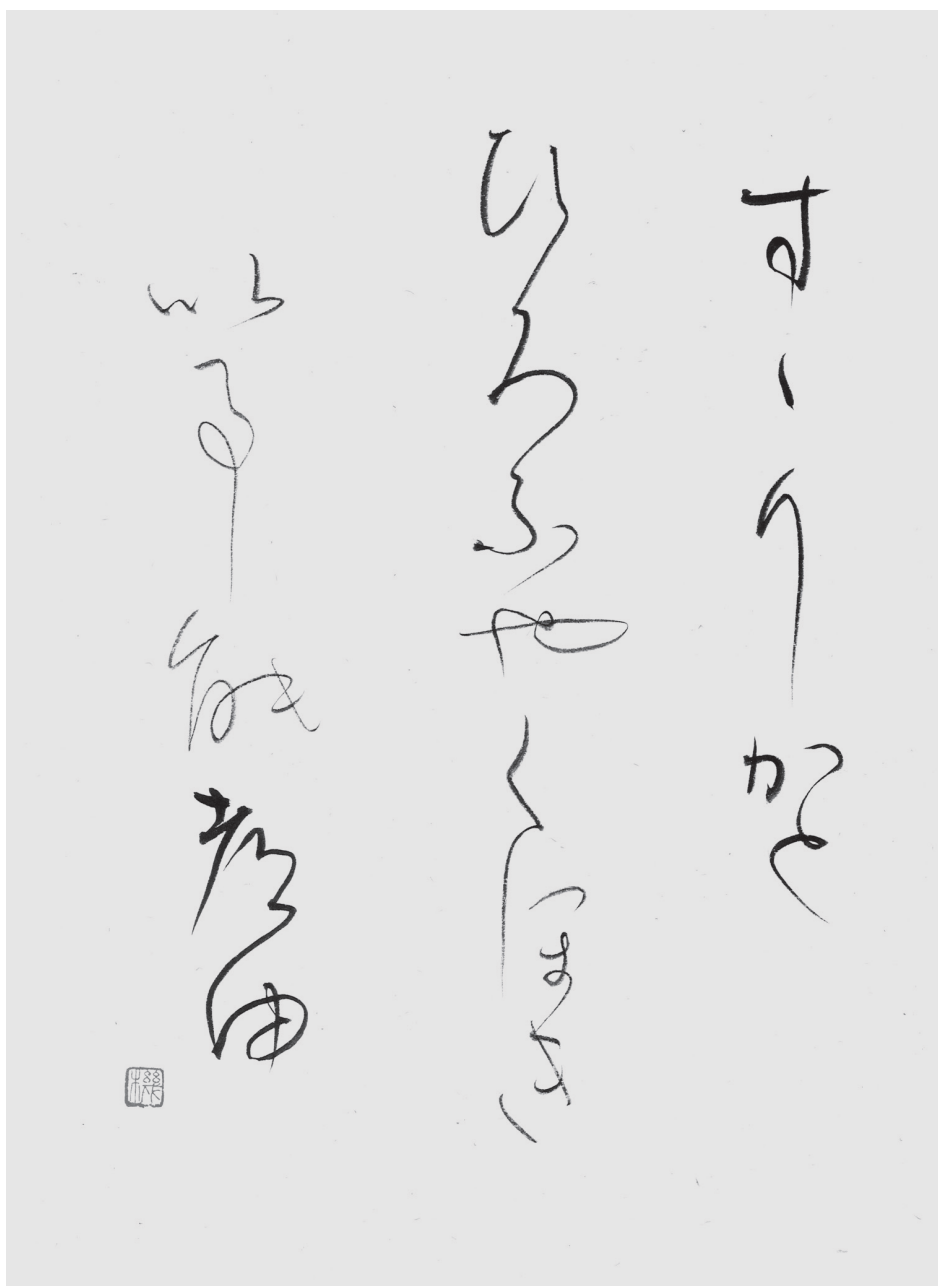
※文献によって字体が異なる場合があります。

◆11月課題予告

空坊致
謝皇帝

新入から1級まで

浅井機山先生書



硯か^{すゝり}と拾^{ひろ}ふやくほき石^{以事能都由}の露

松尾芭蕉^{まつおばしやう}

〔句意〕

元禄2年9月22日付、杉風宛（推定）書簡に見える。「二見」の前書き。二見が浦で、西行の使った硯かとくぼんだ石を拾ってみると、くぼみに露がたまっていた、の意。

◆11月課題予告

岩^{いは}かけを流^{なが}れ出^でて鴛鴦^{をしうづ}美^{うつく}しき

〔解説〕

上5は、単体、単体、2字連綿。中7は、曲線も多く、左右によく動

いて上下に長く紙面の中心という存在。下5は、墨がかすれてきて単体、単体ときて墨継ぎし、力強く2字連綿。さて、1行ずつ見ていきましょう。

「すゝりかと」

短い1本の線を引くのにも、同じ速度で最後まで引いてはいけません。必ず1、2と速度を変えて引きます。

書き出し「す」の第1画は毛先を突いて（蔵鋒）強くバネをかけ、1・ゆっくりクー、2・やや速くグーッ、と強靱な線を引きます。この力強さが全体に影響しますから、ここは思い切って書いて下さい。そうすれば、あとはスムーズに〈運筆〉出来ます。

「ひろふやくほき」

仮名のリズムは簡単です。〈直線ハヤイ、曲線オソイ、角トメル〉。車の運転と全く同じです。曲線で速く走ったとしたら、タイヤがギーギー音を立ててあまりよろしくない。直線ですると走っていると後車からブーブー鳴らされます。特にカーブではユックリ回りましょう。

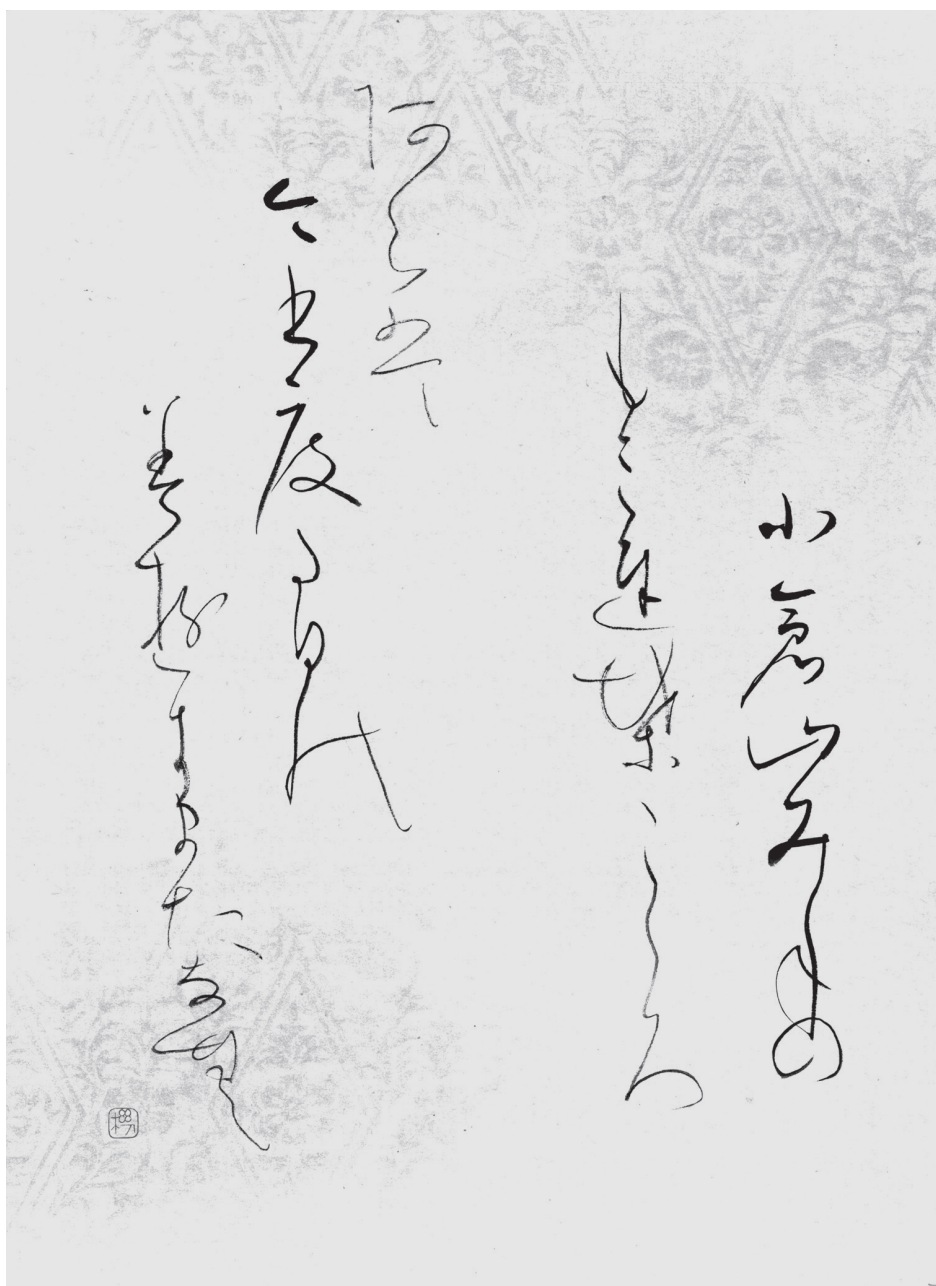
「ひろふ」は、曲線、直線入り混じっていますから、このリズムでいきます。初歩の人は曲線部分に印をつけておくと上手く書けます。

「以事能都由」

変体仮名は、字典で〈字母〉を確認しましょう。

準初段から師範まで

浅井機山先生書



小倉山^{みね}峰^{もみぢ}のもみぢ葉^{こころ}心^{あらば}あらば

今^ひひとたび^{のみ}ゆき^待たなむ

「拾遺和歌集17雑138」藤原忠平

〔歌意〕

小倉山の峰のもみぢ葉よ。もしこころがあるのなら、天皇のもう一度の行幸をお待ち申していいほしい。

◆11月課題予告

さゆる日の時雨の後の夕山に
うす雪ふりて空ぞ晴れゆく

〔解説〕

新料紙です。うすい紫地に版木模様が上部と左下部にあります。極めてうすい色ですから、散らし書きにはあまり影響しないでしょう。もっと模様のくっきりしている場合は、散らし書きにも大きく影響します。

さて、1行ずつ見ていきましょう。

「小倉山み年の」

用紙の途中からやや上上がった位置に「小」を書き、その書きぶりを受けて「倉」と「放ち書き」し、「山」の終画から連綿して「年」につなぎ、タテによくのびて、「の」は細めに「年」に字を「重ね書き」します。

「毛三遅葉ころ」

第2行は右の行より上げて、上の余白を受け入れ、突き刺すように書き出しています。「毛」の終画からリズムカルに書いて「三遅」に至る短い直線を書いていきます。「遅」の終画から「葉」では、細い線で上のリズムカルをふわっと受けて柔らかに曲線を描き、直線に入って引き締めていきます。

「阿ら盤」

墨量がなくなっても大らかにゆったりと書きます。

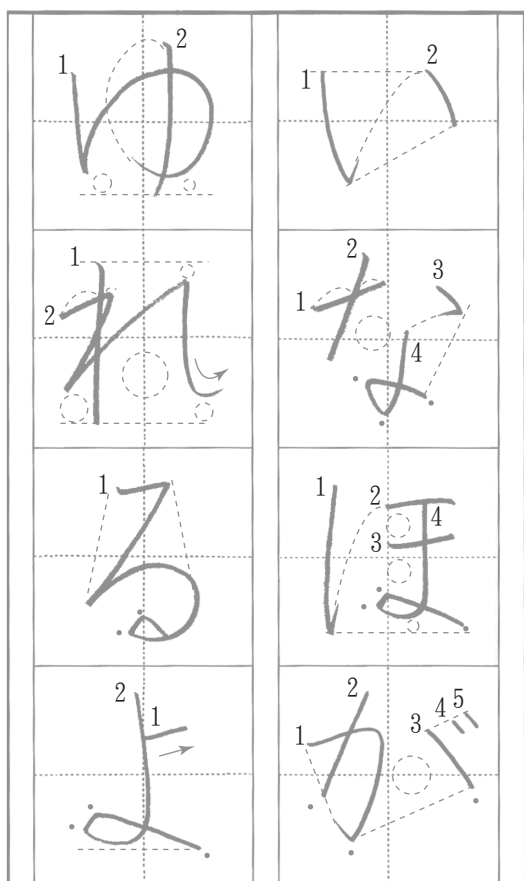
「今悲度多日能」

〈墨継ぎ〉して、重くジツクリ「今」を書いて気分を一新します。あとはキビキビとややスピードを増して余白へ。

「美遊支末た奈無」

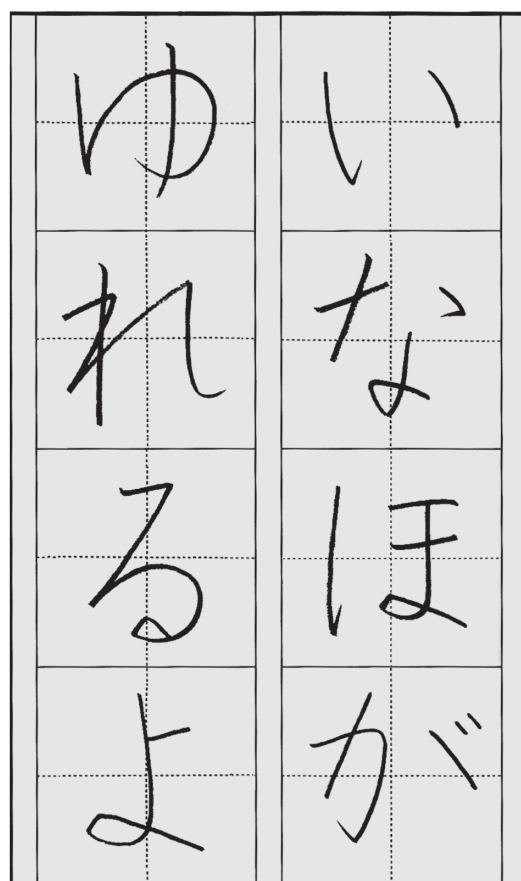
第1行より控えめに仕上げます。

〈ようぐ〉自由(黒色にかぎる)



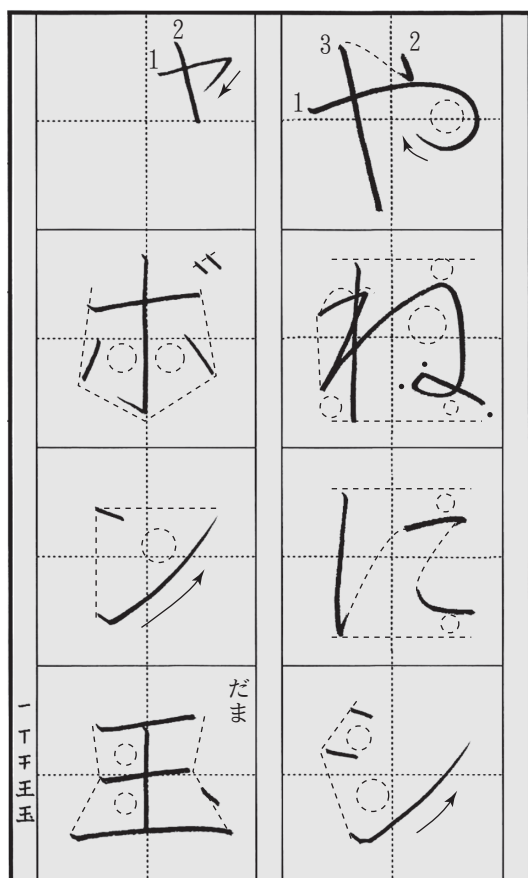
◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)

★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。



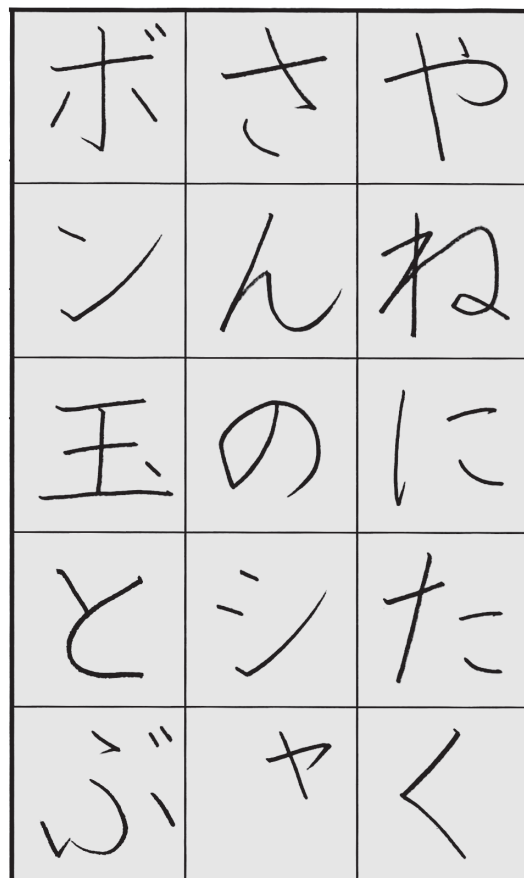
よ
う
年

幼年〜小三年まで
三宅容玉書



新入〜1級

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。



小
一
年

準初段以上

〈ようぐ〉自由(黒色にかざる)

一十オ木本	本 ホン	十 ジュウ
リ月月月	を	月 ガツ
一十言言言言	読 ヨ	中 チュウ
	む	に

新入〜1級

り	さ	十
て	つ	月
読	本	中
む	を	に
よ	か	五

小二年

準初段以上

一ニ三手	手 テ	湖 ミヅウミ
入	入 イ	で
	れ ハネ	羽 ハネ
	を	の

新入〜1級

白	入	湖
鳥	れ	で
の	を	羽
む	す	の
れ	る	手

小三年

準初段以上

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

〈用具〉自由(黒色に限る)

て	はや
健康	起
康	さ
に	し

新入〜1級

康	よ	早
に	く	起
生	食	き
き	べ	し
る	健	て

小四年

準初段以上

小四年以上
岡嶋桂川書

馬	えき	明	(あす)
時	ト	日	(あす)
計	ケイ	最	も
前	まえ	寄	よ(り)

解説(よく見て習いましょう)

※明日・最寄り＝単語としてこのように読みます。

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。

に	馬	明
集	の	日
合	時	最
す	計	寄
る	前	り

小五年

(全員)

解説 (よく見て習いましょう)

街	共
模	同
型	作
完	業

用具 自由 (黒色に限る)

小 六 年

完	街	共
成	の	同
し	模	作
た	型	業
よ	が	で

(全員)

中二・三年 (行書)

養	す	来
殖	る	春
し	稚	に
ま	魚	放
す	を	流

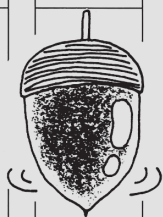
中 一 年 (行書)

を	ず	外
持	買	出
参	い	時
す	物	は
る	袋	必

▼小三年以下の課題

かん の しゅん こう
神 野 春 紅 書

遊 ^{あそ}	コ	ド	拾 ^{ひろ}	近 ^{ちか}
び	マ	ン	っ	く
ま	を	グ	た	の
す	作 ^{つく}	リ		林 ^{はやし}
	っ	で		で
	て			



◎お手本はえんぴつ使用



しめきり 10月24日(必着)

習っていない漢字は
ひらがなで書いてもよい。

▼小四年以上の課題

なる せ ゆう か
成 瀬 有 華 書

お	み	呼 ^よ	共 ^{きょう}	駅 ^{えき}
願 ^{ねが}	な	び	同 ^{どう}	や
い	さん	か	募 ^ぼ	街 ^{がい}
し	に	け	金 ^{きん}	頭 ^{とう}
ま	協 ^{きょう}	を	の	で
す	力 ^{りき}	し		
	を			

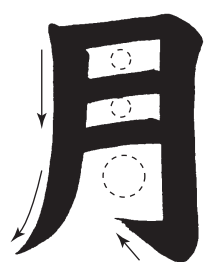
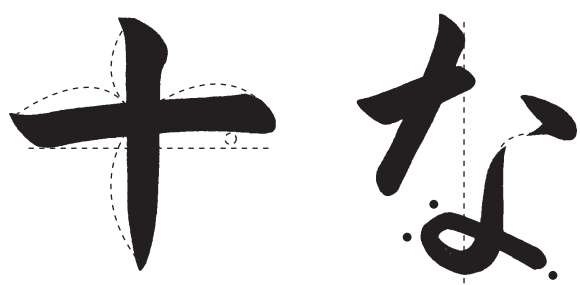


◎お手本はつけペン使用

◇作品の出し方

- 一、選定用紙(五行・四行)に書いて下さい。
- 一、作品には、支部名(校名)学年、氏名を書き入れて下さい。
- 一、筆記用具は自由です。(黒色に限る)
- 一、四行用紙を使用してもよい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
- 一、成績は評価により毎月変わります。
- 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。





小五
集駅
合に

れ手
小三
入

起

手

駅

入

集

早

き
小四
早起

小三・小五年

水野碧友書

中二・三 養稚 殖魚

小六 作業 共同

中一 物買 物袋 い

物魚 養 作業 買

※行書は線の連なりを大切に！

小六／中二・三年 玉樹小華書